日刊工業新聞

年月日	23	08	04	ページ	11	NO.	

出光、系統用蓄電池参入

レノバなどと新会社

姫路の製油所跡地に設置

出光興産は系統用蓄電池事業に参入する。

太陽光・風力発電の欠点である電力需給の不安定さを解決する有力な事業と判断し、レノバ、長瀬産業、SMFLみらいパートナーズ（東京都千代田区、寺田達郎社長）と共同で新会社「姫路蓄電所」（姫路市飾磨区）を設立した。月内に着工し、2025年10月の事業運転開始を目指す。

新会社の出資比率は出光が51%、レノバと長瀬産業が各22%、SMFLみらいパートナーズは5%。出光が蓄電所の運用・電力市場での取引・メンテナンス、レノバが蓄電所のエンジニアリング・資金調達・新会社の運営、長瀬産業が蓄電池周りのサポート、SMFLみらいパートナーズがプロジェクトファイナンスを担当する。

出光の兵庫製油所跡地内に送配電ネットワークへ直接接続する蓄電池システムを設置。時間帯に応じて電力を充放電することで電力需給バランスの調整に寄与する。事業用地の面積は約2900平方メートル。蓄電システム出力は1万5000キロワット、蓄電容量は4万8000キロワット時。

近年、再生可能エネルギーである太陽光・風力発電の増加に伴い、電力需給の不安定さが課題になっている。これに対し、系統用蓄電池は電力需給の安定化に有効なエネルギー貯蔵設備であり、再生可能エネルギーのさらなる導入につながると期待されている。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社